

令和7年度 第2回武川地域委員会会議録

- 1 開催日時 令和7年7月22日(火)
午後8時00分 開会 ～ 午後9時10分 閉会
- 2 開催場所 北杜市武川総合支所1階 小会議室
- 3 出席委員 秋山 広志・水石 清次・小野 勝彦・古屋 貞則・福井 俊克
・末木 基治・鈴木 洋明・宮澤 和子・山田 佳男・日向 勝
・長坂 正・功刀 美津子・小澤 建二・溝口 暁美・溝口 直樹
・粟澤 雅子
16名
- 4 欠席委員 なし
- 5 出席職員 地域市民課 市民担当 長坂 美和・小澤 志貴子
- 6 議 題 (1)地域委員会の役割、あり方の方針について
(2)その他
- 7 公開・非公開の別 公開
- 8 傍聴人数 0人
- 9 署 名

署名委員 福井 俊克

署名委員 末木 基治

1 開 会

2 会長あいさつ

3 会議録署名委員の指名について

「北杜市審議会等の会議の公開に関する要綱」第9条第3項第3号の規定に基づき、出席委員の内2名の署名を得る必要があるため、会長が福井俊克委員、末木基治委員を指名。

4 議 事 (北杜市地域委員会設置条例第8条第2項の規定に基づき、会長が議長となる。)

(議 長) 第1号議案「地域委員会の役割、あり方の方針について」事務局に説明を求める。

(事務局) 資料に基づき3つの柱について簡略に内容を説明。

(議 長) 1つ目について、意見があるか。武川は「星空観測会」が例として挙げているが、市全体では、提案があまりなかったと思われる。

(委 員) 武川は地域委員本来の役割を果たしている。そもそも地域を一つの物差しで測ることが問題。事業を行うについても他の地域に比べ、武川は団結力の良さがある。これからも残していきたい。

(議 長) これからも今まで先輩方が築いてきた事業を継続していきたい。

(委 員) 年々、祭りの予算が減少している。やり方も工夫している。出演内容の見直し、出店者からテント代をもらうなど、協賛も武川のみならず、町外からもお願いしている。予算を確保してもらい、地域活性化のために事業を残したい。

(委 員) 武川は細かく予算分けして活動している。将来的には、イベントについて武川と白州を一緒にできないかと思う。市全体でイベントにかなりの予算が使われている。それぞれ、実施している。韭崎は一本となっている。高根、長坂は一緒にやっている。祭りの分類もあるが、今後まとめていく必要あり。

(委 員) 武川、白州は甲斐駒エリアとして市が検討して一緒に始めた経過がある。当初は、お互いに交流してやっていた。最近は単独になっている感じがある。逆行している。米・米まつりも名水まつりに吸収した経過あり。位置づけをしっかりとしたほうが良い。当初の市の方針からうやむやになっている。最初に立ち返り、考えたほうが良い。

(委 員) 以前は、協力金をもらわないようにということで補助を受けた経緯がある。防災防犯活動も補助。当初の方針と逆行している。協力金、協賛金をもらわずに活動できるようにという話だった。補助がないと防災防犯活動も厳

しい。

- (委員) 各地域ばらばら。市として統一した考えを出すべき。花づくりの事業も武川しかやっていない。これも減額されている。各地区でこの分を支出している。地域委員会予算が減らされている。
- (委員) 大泉はまつりの協賛が多い。企業も多い。
- (委員) 長坂・高根も協賛が多い。
- (委員) 統一ルールは難しい問題。特に防災防犯関係は各戸から集金せず、補助している。
- (委員) 今の事業で予算が足りていないという問題はあるが、あり方についての話。これから新しく地域の課題を拾い、新しい事業を提案していくことも議論として必要。事業の必要性を説明し、提案すべき。地域の課題は、例えば、区民以外の人を地域にどう取り込むかなど、具体的に何をすべきかを議論することも地域委員会の議題としてよいと思う。
- (議長) 武川は事業を行っているが、踏み込んだ議論ができていない。新たな地域課題を解決すべく、新体制の地域委員会で取り組む必要がある。
- (委員) 地域委員会を必要としていない地区もある。なぜ、この事業を実施するか、どういう効果を得られるかについて、話し合いがされてこなかった。再度、地域課題の解決の目標を持ち、どうすればよいか考え事業実施していくことが大切。基本的なことを考えながら、事業をするという点で今回の見直しは、良い機会だと思う。資料については地区の一部抜粋となっている。掲載するなら、すべての地区を平等に載せるべき。
- (議長) 色々な意見が出た。イベント集約、イベントの意味付け等、これを機会に根本的に見直す必要あり。
- 地域住民主導のイベントについての例もあるが、武川でも市民が頑張っている。祭りは実行委員会形式で行っている。事務局が支所でないとできない。
- (委員) 「みあげて星見里」も地域委員主体で行っている。周囲から羨望されるような事業。今後も継続できるように努力している。良いものは残し、改革すべきは改革。
- (議長) 他に残すべき事業はあるか。横並びの事業に子どもの通学見守りが入っているがどうか。
- (委員) 青パトは残すべき。13人で1年220日活動している。補助金はガソリン代として使用。補助金がないとできないこと。安全安心が守れない。武川独自の取り組み。
- (議長) ふるさと祭りは残したい。慰霊の意味がある。
- (委員) 「地域の祭りは地域住民が主体となり、市の職員はサポートを行う」とはどういう意味か。文協のように手放しにしたいのか。
- (議長) 市でサポートするところは、前向きにとらえたい。

(委員) 観光協会、文化協会や、スポーツ協会は市で関わらなくなり、地域が苦勞している。

(委員) 地域委員会は市が方針を示すべき、行政主導でやるべき。地域委員に聞くべきことではない。スポーツ協会、文協のやり方のようにすべきでない。以前は市でやってくれたが、各種団体に責任を押し付けた。スポーツ協会の支部長が公共施設である指定管理の草刈りまでしている。

(議長) 市のサポートは課題、市が方針を示したり、補助金を増やすべき。市がもっと関わるべきという意見が多い。住民が盛り上げることも大事だが、市が関わらないと始まらない。地域を大切にすべき。

(委員) 当初の地域委員会の目的とずれている。イベントは市でまとめていくべき、20年もやってきて今頃、見直しはおかしい。なくすならなくす、補助を付けるならつけるべき。

(議長) 中途半端という事。最後は、要望のないところに予算はつけるべきでないというのが市の意向。横並びの事業はバラバラ、統一することで地域の良さが減るのは、本末転倒である。量が減るのは仕方がない。

(委員) ルールに縛られることでできなくなることもある。項目により精査。各町の事情も違う。規模、人数など。各町の特徴を大切に慎重にすべき。

(委員) 行政区への補助、例えば、老人クラブは、地域委員会から補助、区から補助と重複し無駄がある。調査したらどうか。地域委員で調査機関を設けたらどうか。分析が必要。

(委員) 地域委員の成果が資料に何も無い。がっかりする。行政の役割は何か。成果はあると思うが、分析が足りないと思う。

(意見・質問がないので、第1号議案の審議は終了。)

(議長) 第2号議案「その他」について、委員から何かあるか。

(委員) いつも感じていることだが、合併後、武川では、YLO、旧支所庁舎を取り壊し、せせらぎを建設した。ホールイベントがあるときには、駐車場が足りない。過去には、市で状況を見ながら、検討するという事だったが、せせらぎの東側の田を駐車場にしたらどうか。地域委員会としてせせらぎの駐車場を市に要望したい。

(議長) 意見があったが、会として要望してよいか。

(全員了承)

(議長) 事務局で、要望の準備をお願いしたい。

(委員) 地域委員会の会議の回数を増やすべき。

(議長) 地域委員会の組織や人数、構成について、検討してほしい。ただし、行政区とは、併用すべきではない意見が以前あった。各自、資料に添付されている意見書を事務局へ提出していただき、武川としての意見を出し、次の会へつなげたい。

他にあるか。なければ議事を終了する。慎重審議していただき感謝する。

(意見・質問がないので、第2号議案の審議は終了。)

9 閉会のことば (副会長)

午後9時10分終了

令和 年 月 日

議事録署名人 _____ 印

議事録署名人 _____ 印